

チャペル週報

No.6

2018.5.14 ~ 5.18

春季宗教運動特集号

そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。
「あなたがたも知っているように、異邦人の間では支配者
たちが民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。
しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。
あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者にな
り、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。
人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、
多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たの
と同じように。」

(マタイによる福音書 20章 25-28節)



吉岡記念館とランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

5月14日(月) 神 アジア祈祷日 橋本 祐樹(神学部助教)
経 音楽チャペル 聖歌隊
人 音楽チャペル 混声合唱団エゴラド
理 前川 裕(宗教主事)
聖和 聖書物語「ミリヤムの小さな弟」

5月15日(火) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「"輝く自由 Mastery for Service"～校歌『空の翼』を歌う意味」
田淵 結(院長)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「KSC24年目の歴史から考える建学の精神」
長峯 純一(副学長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「そこにいた日本人～吉岡美国～」
日浦 直美(副学長)

5月16日(水) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「Kwansei Grand Challenge 2039」
村田 治(学長)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「"輝く自由 Mastery for Service"～校歌『空の翼』を歌う意味」
田淵 結(院長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「最初の一人となる」
舟木 讓(宗教総主事)

5月17日(木) 神 尾崎 武蔵(神学部4年)
文 Andreas Rusterholz(宗教主事)
社 熊本地震現地ボランティア活動参加学生による報告
法 音楽チャペル 混声合唱団エゴラド
商 山本 俊正(宗教主事)
国 Chapel in English Eun Ja Lee(宣教師)
総 原田 千尋(公益財団法人大阪YWCA職員)
聖和 田淵 結(関西学院院長)

5月18日(金) 院 Ruth M. Grubel(宣教師、社会学部教授)
神 音楽チャペル ゴスペルクワイア "P.O.V."
文 Chapel in English Andreas Rusterholz(宗教主事)
人 李 善恵(人間福祉学部准教授)
理 前川 裕(宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
5月15日(火) 宗教運動のために 石森 圭一(宗教活動委員長)
5月18日(金) ペンテコステ(5/20)を迎えるにあたって Andreas Rusterholz(文学部宗教主事)

“輝く自由 Mastery for Service”～校歌『空の翼』を歌う意味

田淵 結

みなさんは関西学院の校歌を歌えますか？もしあなたが関西学院についてかなりよく知っているとしたら、この質問には「どの校歌？」と答えられるかもしれませんね。そう、関西学院は公式には4つの校歌を持っています。そのなかでもっともよく歌われているのはもちろん『空の翼』です。山田耕筰先輩(1902年普通学部入学)と北原白秋氏の作曲作詞によるもので…と曲の説明をするときりがないのですが、ぜひまずはこの曲を、できれば1番から3番までしっかりと歌っていただきたいと思います。しかし、関西学院でもこの『空の翼』を歌うことに抵抗を感じる方もおられました。

1995年(阪神淡路大震災が起こった年)4月1日に関西学院大学神戸三田キャンパスが誕生し、総合政策学部がスタートしました。当時の学生たちは「上ヶ原ふるえ！」という歌詞になじめなかったようです。この歌詞は自分たちのキャンパスを無視しているのでは、というかなり強い抵抗感です。当時としてはそのような批判もあったようです。

この曲の発表は1933年で、関西学院大学誕生の翌年にあたります。ここでの「上ヶ原」とは、1929年まで神戸原田にあった学院が西宮上ヶ原に移り、中学部、高等部、大学という総合学園としての歩みを新しくスタートさせる記念の地、関西学院にとっては大学誕生の場所、それを記念しています。だから神戸三田であっても、西宮聖和であっても、大阪梅田であっても、それらをすべて含めて関西学院大学は上ヶ原から始まったことを、上ヶ原キャンパスにこめられたベーツ先生はじめ、新キャンパスや大学開設に携わった方々の思いを私たちも共有するための象徴的意味をもっているのです。

しかし『空の翼』に対するもっと大きな抵抗あるいは拒否は1940年代に起こりました。日本が太平洋戦争への道を歩みだすなかで、日本政府は1938年に「国家総動員法」を施行します。日本全体がひとつになって戦争を戦うために総動員されることとなります。現在上ヶ原時計台正面の窓に鉄柵がつけられています。戦時中に武器作成のための金属供出ということで撤去されてしまいました(2010年復元)。そんな社会のなかで「輝く自由」を歌うこと、それは当時としては反社会的行為です。し、「Mastery for Service」はまさに敵国の言葉でした。ついに学院では『空の翼』が歌われなくなり、第二校歌として『緑濃き甲山(かぶと)』が学院創立50周年記念の年1939年に作曲されました。『空の翼』が歌われたのはたった8年間だったのです。

2018年の今、私たちが『空の翼』を歌う意味、それは私たちが関西学院の一員、We are Kwansai!であることをしっかりと意識するためですが、それとともに「輝く自由 Mastery for Service」という歌詞を心から歌えることの大切さ、それが歌えなくなる時代を二度と来させてはならない、という思いも込めて歌っています。関西学院が「真理」を追究する学びに積極的に取り組むとき、「真理はあなたたちを自由にする」というイエスの言葉を常に心に刻みたいと願います。

(院長)

“Kwansei Grand Challenge 2039”

村田 治

関西学院は、今年3月に、創立150周年にあたる2039年を念頭においた超長期ビジョンと長期戦略からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」を発表しました。学生の皆さんには、このような関西学院のビジョンや戦略にはあまり馴染みがないかも知れませんが、皆さんが社会で活躍している20年後の世界を予測したビジョンとなっています。

「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定するに当たっては、20年後の未来を予測したわけですが、その中で大きな影響を持つと考えられるのが、いわゆる人工知能や自動化による仕事（Task）の組み換えです。いくつかの研究によると、10年後くらいには、仕事（Task）の20～50%が人工知能にとって替わられると言われていますが、同時に、新しい仕事も生まれてくることが予測されています。新しく生まれてくる仕事は、知識や技能よりも対面的な人間同士の関係が重視される仕事や、人工知能との共同に基づく仕事であると考えられています。このことは、知識や技能を持っているだけでは通用しない社会が来ていることを意味します。

これからの社会では、ITリテラシーや情報処理能力に加えて、コミュニケーション能力やイノベーション力、さらには、学び続ける能力や人間力が重要であると言われています。関西学院の建学の精神は「キリスト教主義に基づく全人教育」です。「Kwansei Grand Challenge 2039」には、この建学の精神を踏まえて、上に挙げた能力・資質を学生が身につけるための方策を盛り込んでいます。特に、世界的課題に挑むことができるように、主体性、タフネス、多様性への理解を備えた「強さと品位」を持った学生を育てたいと考えています。これを実現するために、インターナショナルプログラム、ハンズオンラーニングプログラム、副専攻プログラムからなるダブルチャレンジ制度の発展・充実やAI人材の育成などの新しいプログラムの開発も考えています。

社会に出てからも学び続ける能力を身につけるためにも、学生の皆さんには、勉学でも課外活動でもボランティア活動でも徹底的に打ち込んでほしいと思います。その中で、自分自身を鍛え「Mastery for Service を体現する世界市民」に育ってくださることを期待します。

(学長)

KSC 24年の歩みから考える建学の精神

長 峯 純 一

1995年4月、神戸三田キャンパス(KSC)とそこに総合政策学部が開設されました。開設当初のキャンパスは、教職員も学生も、ここから新しい何かが生まれるのでは、という期待と熱気に包まれており、私自身も新しい挑戦に巻き込まれているという不思議な感覚を覚えました。それ以来、地の利で劣るKSCは、常に新しいことに挑戦する姿勢を打ち出す必要があると思うようになりました。

総合政策学部は、その後、2002、2009年度に学科増設をして4学科体制となり、KSCには2001年度に理学部が加わり、理工学部への改組を経て、2006年度(6学科)、2015年度(9学科)となり、こぢんまりとしていたキャンパスも大所帯になりました。その一方で、総じてキャンパスは平穏になり、かつての熱気を懐かしく思うようになっていました。

私は、数年前から大学・学院全体の仕事に関わる機会を与えられ、上ヶ原からKSCを見るようになりましたが、KSCで起きてきたことは建学の精神のなせるものだったと理解するようになりました。総合政策学部自身は、学際的な学問の追究や国際化・情報化に対応できる人材育成を目標に掲げ、“Think Globally, Act Locally”、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という学部の基本理念を繰り返し唱えてきました。学生たちは自主的にサークルを立ち上げ、福祉やまちづくりの活動、地域や途上国でのボランティア活動、等に参画してきました。教職員と学生は一緒になり、進取の何かに挑戦し、自分を鼓舞しながら満足や成長を得てきたように思います。

具体的に何をしよう教えられたわけでもなくとも、それが自然と実践されていく。もちろんチャペルでの教え、アイデンティティを持ったキャンパスや校舎、先輩の教員や学生の背中がそうさせてきたのかもしれない。しかし人知れず伝えられていくだけの明確な建学の精神を持っていることが、本学の強さであり良さであると実感するようになりました。

昨年10月、台風21号によってKSC内の200本を超える樹木が倒れる被害を受けました。その中には、24年間、少しずつ成長を見守ってきた木もあり、私自身は少なからずショックを受けました。現在のKSCのある意味すっかりした風景は開設時を思い起こさせるものですが、再び新しい木が成長していくのを見守りながら、文理融合キャンパスの特徴を發揮した新しい挑戦に向かって行くことを願っています。

(副学長)

建学の精神と吉岡美國(第2代院長)の生き方

日浦 直美

建学の精神を想う時、多くの学院関係者は、創立者のW.R.ランバス先生や、スクール・モットーを提唱した第4代院長のC.J.L.ベーツ先生のことを心に浮かべることでしょう。卒業して何年もたったある時、何気なく学院の歴史を綴った書物の頁をめくっていて、学院の草創期に、ランバス父子との運命的な出会いによって、キリスト教に入信し、学院の設立とその後の発展に寄与した日本人がいたことを知りました。開いた頁には、「伝道の情熱と開拓者精神に燃えた宣教師達と、新しい西洋の文化とその精神的基礎であるキリスト教信仰を求めた日本人指導者たちとの出会いから、関西学院の歩みは始まった」と書かれていました。

日本人指導者の一人である、吉岡美國先生は、23年半の長きにわたり、第2代院長として学生達を導き、ご退職後も学院を見守り続け、ご生涯を全うされた方です。私の興味を特に引いたのは、彼が京都の幕臣の家に生まれ、武士道に通じており、かつ、キリスト教の信仰に基づいて、学院の建学の精神を具現化される生き方を貫いたことです。ベーツ院長は彼を「武士道とクリスチャニティの最も高貴な徳を合わせ持つ人物」と評したとのこと。1899年(明治33年)に出された宗教教育禁止の訓令(文部省訓令第12号)に対し、吉岡先生が「聖書と礼拝なくして学院なし」と毅然として言い切ったというエピソードは、武士道とクリスチャニティが融合した吉岡先生のご人格と生き方に触れる上で非常に印象的です。

多文化共生社会を生きる世界市民として、私たちには、どのような資質が求められているのでしょうか。異なる価値観に出会うことから生じる葛藤を恐れず、対話と参加を通して価値の融合を図り、より高次の価値の形成を自らの人格に結実させた吉岡先生の生き方は、グローバル社会を生きる人間の貴重な手本であるように思えます。今、この時に、改めて大学を含め現在の学院全体の発展の基礎を固め、建学の精神に生きた吉岡美國先生を想い、感謝の気持ちを深くしています。

(副学長)

最初の一人に ―「建学の精神」を体現する人となる―

舟木 讓

関西学院大学に入学されてから新生の皆さんはすでにひと月あまりの時間を過ごされました。また2年生以上の方々も新しい年度を迎えそれぞれの目標に向かって新たな歩みを始めておられます。それぞれ、これまでの関西学院大学での生活を振り返って、何が印象に残っているでしょうか。私たちを取り巻く世界は、AIの著しい進化と加速度的な利用の増大、日本においては少子高齢化と人口減少という、有史以来経験したことのない状況下であり、これまでの常識や知識が簡単には通用しない日がすでに到来していると言えます。そのような中で関西学院大学という私立大学において私たちが学ぶ意味は何でしょうか。

関西学院はキリスト教主義を建学の精神として1889年に産声をあげ、日本の近代化と共に、その歴史を紡いできました。創立当初の日本の状況は、現在の私たち以上に将来は不透明で、日々劇的な変化が起こっていた時代であったはずですが。そのような歴史的背景の中にあつた関西学院の草創期に学んだ先人たちの多くが、「最初の一人として」様々な分野を開拓してこられたことを知っていただきたいと思います。例えば、本学の文学部で教鞭をとられ後に日本ライトハウスを作られた岩橋武夫氏、その岩橋氏に学び日本点字図書館を創設された本間一夫氏、そして、昨年4月に、出身である大分県に「記念館」が開設された日本のアンデルセンと称される久留島武彦氏等々、枚挙にいとまがありません。

ただ、その方々に共通するのはキリスト教信仰という関西学院の建学の理念に基づき、世界と社会に真摯に向き合い、自らに与えられているタレント（才能）を誠実な努力をもって開花させ、その結果、社会に貢献されたという点です。各時代、社会において見過ごされがちで、時にその存在すら人々の意識の上にはのぼらないような、重要な問題に「Servant」すなわち社会的に最も弱く、低くされている人々の視点に立って向かい合い、その問題の解決に向けて必要な事柄を「Master」して歩んで行かれたと言えるのです。

昨年度、創立150周年を見据え「Kwansei Grand Challenge 2039」という超長期のビジョンが策定されました。そのビジョンの実現に向けて、多くの先達が「最初の一人」として開拓された歴史に学び、良き学びと出会いを関西学院大学で続けて頂きたいと思えます。

(宗教総主事)

●チャペルオルガニスト 2次募集

チャペルオルガニストの2次募集をします。5月26日(土)にオーディションを行います。

採用されますと個人レッスンを受けることができ、チャペルの奏楽をはじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して、教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身に付けることができます。

対象者：西宮上ヶ原キャンパスおよび西宮聖和キャンパスの大学1年生と2年生

応募方法：「2次募集要項」「2次募集 チャペルオルガニスト応募用紙」を吉岡記念館1階宗教センターまたは教育学部事務室で受け取り、応募用紙を提出してください。また電子メール添付での応募も受け付けます。

「2次募集要項」「2次募集 チャペルオルガニスト応募用紙」はHPから下記の要領で入手できます。

関西学院大学 → 宗教センター → ニュース

教学Webサービス：お知らせ → その他

応募期間：5月7日(月)～5月24日(木)の事務室開室時間

お問い合わせ・資料請求：吉岡記念館事務室宗教センター

電話：0798-54-6018 E-mail: organist@kwansei.ac.jp

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパス正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝をはじめコンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

5月16日(水) 関西学院交響楽団 管楽アンサンブル

5月23日(水) 関西学院交響楽団 弦楽アンサンブル

5月24日(木) 関西学院バロックアンサンブル

5月30日(水) 関西学院ゴスペルクワイア

6月6日(水) 関西学院ハンドベルクワイア

6月7日(木) 関西学院大学応援団総部 吹奏楽部

いずれも12:50～13:20

ところ：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主催：宗教センター

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。【どなたでもご自由にご参加ください。】

(17:50～18:20 1405教室)

主題：「建学の精神」

5月17日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

主題：「ペンテコステを迎えて」

5月24日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

5月31日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

●オルガン音楽の泉 2018 Spring semester

パイプオルガンの響きに想うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第26回 5月24日(木) 渡邊 清人(Organist at First United Methodist Church

in Wichita Falls, Texas USA)

渡邊 知江美(Organist at Floral Heights United Methodist Church

in Wichita Falls, Texas USA)

第27回 6月18日(月) 高橋 聖子(同志社女子大学嘱託講師)

いずれも12:50～13:20[開場12:40予定]

ところ：関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主催：宗教センター

●夕べの祈りatランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第2回 6月7日(木) 18:30～20:00

ところ：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主催：夕べの祈り準備会(学生有志)

協力：関西学院宗教活動委員会